

Meikei  
High School

2020

| 学園案内 | School  
| Brochure |

MAKING — MEIKEI —  
THE DIFFERENCE



スーパーサイエンスハイスクール指定校 / 国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校  
スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト指定校

茗溪学園中学校高等学校



## 茗溪で学ぶ、 「自ら学び、成長していく能力」

「人類ならびに国家に貢献しうる『世界的日本人』を育成すべく、  
知・徳・体の調和した人格の形成を図り、特に創造的思考力に富む  
人材をつくる」

茗溪学園の教育活動は、この建学の理念に基づいて行われています。  
そして『世界的日本人』の基礎をつくるための学習の場が、茗溪学  
園なのです。

今、世界はグローバル化と技術革新が急速に進んでいます。そのよ  
うな変化の中でも、茗溪学園は建学の理念を見失うことなく、柔軟  
に対応して真の教育を実践してきました。2016年には、国際バカロ  
レア機構（IB）が提供する国際的な教育プログラム、ディプロマプ  
ログラム（DP）の認定校となりました。右に挙げたIBが価値を置く  
人間性を表す「IBの学習者像」は、建学の理念とぴったりと重なり  
ます。茗溪学園で過ごす6年間は、この10の学習姿勢を身につけ  
る期間だとも言えます。

目的は良い大学や会社に入るためだけにあるのではない。  
社会の状況が変化しても決してあきらめずに立ち向かい、  
自分が本当にやりたいことを見つけ、将来大きな舞台で思い切り活  
躍するために必要な力、「自ら学び、成長していく能力」を学び、身  
につける。  
それが茗溪学園の6年間です。







## ● Inquirers

探究する

## ● Knowledgeable

知識を身につける

## ● Thinkers

考える

## ● Communicators

伝えあう

## ● Principled

信念をもつ

## ● Open-minded

心を開く

## ● Caring

思いやる

## ● Risk-takers

挑戦する

## ● Balanced

バランスをとる

## ● Reflective

振り返る







# Inquirers

## 探究する

茗溪学園の生徒は、つねに好奇心をもち、  
探究と調査のための技術を身につけて、自主的に学ぶことができます。  
学ぶことを積極的に楽しみ、その姿勢を生涯もち続けることができます。







## Knowledgeable

### 知識を身につける

若溪学園の生徒は、地域社会や国際社会での重要な問題や課題について、つねに考えをめぐらせ、かたよりのない幅広い分野の知識と深い理解を身につけていきます。

# Thinkers

## 考える

茗溪学園の生徒は、複雑な問題にきちんと取り組むために、批判的に考えたり、創造的に考えたりしながら、理性的で倫理的な判断を導き出すことができます。







## Communicators

### 伝えあう

茗溪学園の生徒は、複数の言語やコミュニケーションの手段を用いて、自分自身の考えを自信を持って創造的に表現し、周囲の人たちと進んで協力し合うことができます。





## Principled

### 信念をもつ

茗溪学園の生徒は、誠実かつ正直であり、公正な考えと正義感を持って行動します。周囲の人々や地域社会を尊重して行動することができ、自分の行動とその結果に責任をもつことができます。



# Open-minded

## 心を開く

茗溪学園の生徒は、他の人々や地域社会がもつ伝統、価値観、考え方に対して心を開くことができます。  
さまざまな意見に耳をかたむけ、内容を判断しながら成長していきます。





# Caring

## 思いやる

茗溪学園の生徒は、他の人の気持ちや必要としていることに  
思いを寄せ、共感し、尊重することができます。周囲の人々の生活や環境を  
よくするために、個人として積極的にかかわり、力を尽くします。







## Risk-takers

### 挑戦する

若溪学園の生徒は、不慣れな状況や不確実なことに、勇気と思慮をもって臨みます。新たな考えや役割、方法を試そうとする自立した精神をもち、勇気をもって自分の信念を貫きとおすことができます。





## Balanced

### バランスをとる

茗溪学園の生徒は、  
自分や周囲の人々が幸せであるためには、知性、身体、  
心のバランスが大切であることを理解しています。



# Reflective

## 振り返る

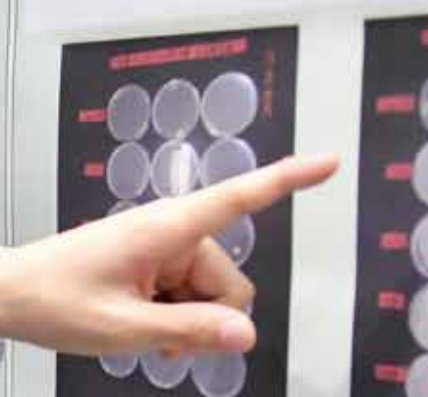
若狭学園の生徒は、自分自身の学習や経験についてしっかりと振り返ることができます。自分の長所と短所を客観的にみつめ直し、学びと成長につなげていくことができます。



温度	希釈率	コロニー数	
20℃	11倍	測定不能※	0.061
40℃	441倍	測定不能※	0.112
60℃	等倍	432コ	測定せず

実験① 温度変化と栄養源の枯渇による芽生形成の特徴  
1) 方法: 納豆菌を培養した後、増地の栄養があるもの(白いもの)に分け、3つの温度で3日間培養した。培養したものを染色し、寒天培地でコロニー数を数えた。

	20℃	40℃	60℃
白	$5.0 \times 10^4$	$6.5 \times 10^4$	0
赤	$2.2 \times 10^4$	$2.4 \times 10^4$	$9.0 \times 10^4$
NOA	$1.5 \times 10^4$	$1.3 \times 10^4$	$6.7 \times 10^4$



**総合考察**  
1) 芽生形成条件についての考察  
実験より、納豆菌の最適な増殖温度は40℃程度である。どの実験においても40℃で培養したものの菌体からである。また、温度が40℃より高温の60℃付近からを守るために芽生になると考えられる。この条件に思の条件を加えると、増殖に必要な栄養が無い場合、成されるようになる。  
2) 芽生を破壊する条件についての考察  
芽生が形成されていると思われる状態の菌に110℃菌をしても死ぬことがなかった。これより、一般に滅菌されている高圧蒸気滅菌処理ではおそらく菌は死なないと考えられる。納豆菌を含む芽生形成細菌に対しては、この処理を完全に殺すことが確実な滅菌方法だと考えられる。芽生と時間と比例して菌の数が減っていった。今回の実験は、12分間照射することで菌の量を約1/20000に減らした。ルネウス菌と比較することで、納豆菌が他の菌よりえられると考えられる。



生徒たちの未来の花を咲かせる  
本校教育課程の概念図



GAKU  
KEI



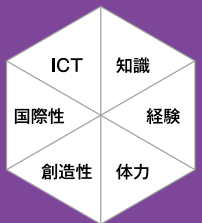
# 茗溪学園の 特色ある教育プログラム

## 茗溪学園 6年間の学びのフェーズ

茗溪学園では、中学・高校の6年間を一体的にとらえ、大きく3つの期間に分けて段階的に学びを深化させていきます。

### 茗溪学園の教育プログラム

1年間の教育課程 2期制 前期:4月~9月 後期:10月~3月

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
		中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
<p>「自ら学び・成長していく能力」の基礎となるスタディスキルズ</p> 	6年間の学びのフェーズ	興味関心の掘り起こし、実験やフィールドワークによる実体験の重視、思考法や計算・証明法、討論会や発表法などの基礎的な方法の養成期		基礎力養成期を踏まえて、深い理解や高度な事象への考察、解釈を目指し、思考法や発表法などにも応用力を求め、各科目・分野に対する興味関心などを深める発展期		思考法や発表法などスタディスキルズの自主的な実践を行うとともに、自身の興味関心などの自己理解から職業観を育て、進学についての意識を明確にする、大学受験に対応した実力の定着期	
		基礎力養成期		展開期		実践期	
		<p>建学の理念 「世界的日本人」の育成 知・徳・体の調和した人格の形成 特に創造的思考力に富む人材育成</p> <p>特色</p>					
<p>校技(ラグビー、剣道)</p> <p>キャンプ</p> <p>国内研修旅行      ステップアップ研修      個人課題研究</p> <p>理科巡検              農業巡検</p> <p>短期入寮              短期入寮              短期入寮</p> <p>クラブ活動</p>							
国際教育	国際理解教育	クロスカルチュラルトーク			海外研修旅行		
	中学生グローバルコース	G1クラス			短期・中期・長期留学		
	国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP)	G2クラス			内部進学選抜テスト → 一般教育課程	国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP)	最終試験
	スーパーグローバルハイスクール (SGH)アソシエイト				高校新入生選抜テスト → 一般教育課程	国際協力・研修等の取組	【取得資格】 ●国内:高校卒業資格 ●海外:大学入試資格
教理教育	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)	全校生(サマースタディ、ウィンタースタディ)			高度な理系研究		



# 国際教育 | Education for International Understanding

## 帰国生をきめ細やかに支援

茗溪学園は創立以来、帰国生を積極的に受け入れ、きめ細やかに支援してきました。毎年、世界中から帰国した生徒たちが入学しており、それぞれが在留先の学校生活で、積極性や多様なものの見方を身につけています。それが、茗溪学園の独自の校風を培う原動力になっているといっても過言ではありません。そのため、茗溪学園では、外国で育んだ個性を十分に活かして、より充実した学園生活を送ることができるようにサポートしています。

具体的には、少人数制による国語や数学の特別クラス、放課後の補習などの学習支援の実施。また定期的にカウンセリングを行い、学習や生活上の問題があれば生徒、教員、保護者で共有して解決に努めています。

2018年現在、茗溪学園の全校生徒1527名のうち、外国での就学歴が1年以上の帰国生は約250名在籍しています。在留先もアメリカやヨーロッパをはじめ、アジア、中東、中南米、北欧など43カ国に及びます。

世界各国の文化を体験した帰国生たちは、それぞれの個性を存分に発揮しながら、躍動感あふれる茗溪学園での日々を送っています。

## 生徒の心の準備を見極めた留学制度

茗溪学園は、開校以来40年間、留学生の受け入れも積極的に行ってきました。また、短期留学生が日本の文化を学びながら学校体験のために訪れることも多く、学園には世界との交流が日常的にあります。

そのような環境の中で、茗溪学園はより強く外国の文化や歴史に興味を抱いた生徒には、その機会を持てるようにAFS、EIL、YFU、JFIEなどの、歴史があり信頼のおける公的な留学プログラムを通じて、世界各地へ送り出す留学制度も整えています。

さらに、イギリスの私立学校への1年間留学プログラムや、ニュージーランド、オーストラリアへの独自の中・短期留学プログラムもあり、生徒たちが外国の文化を体験できる機会を多く設けています。

茗溪学園の留学制度では、単に希望者を海

外に送り出すということはず、留学を希望する生徒に対して、事前の校内選考を行い、留学の志望動機を作文にまとめさせます。さらに面接で留学への心構えや準備がきちんと整っているかを確認します。この過程で生徒が外国の文化の中で生活することの意義や困難さを、十分認識しているかどうかを見極めます。茗溪学園がこのような段階を経る理由は、生徒自身に留学することに対して、しっかりとした目的意識と覚悟が整ってこそ、初めて充実した留学生活が実現すると考えているからです。







日常的に国際感覚が磨かれる、  
世界に開かれた多彩な教育プログラム

### 中学から英語を極めるグローバルコース

中学校グローバルコースは、高い英語力を維持発展させることを希望する生徒、高等学校での国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) の取得に意欲のある生徒を対象としています。

このコースの生徒は通常の学級に在籍しますが、IBDP 受講も視野に入れ、中学校3年間の英語授業は特別クラスを受講します。

特別クラスの授業は、週6時間(中1は週5時間)の外国人教員による授業と、週1時間の日本人教員による授業で組まれており、次の2つのクラスに分かれています。

G1 クラス：中学入学時、英検2級程度以上の英語力がある生徒対象

G2 クラス：中学入学時、英検3級から準2級程度の英語力のある生徒対象

### 世界の大学を目指す国際教育プログラム

茗溪学園は、2016年7月20日に、国際的な大学入学資格を得られる、国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) の認定校となりました。IBDPとは、スイス・ジュネーブに本部を置く、国際バカロレア機構 (IB) が認定する国際的な教育プログラムです。

IBの目的は、世界の複雑さを理解し、そのことに対処できる生徒を育成して、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身につけさせることです。そのような資質を持った人材を育成するため、IBでは3歳から19歳までの生徒の年齢に応じて、4つの教育プログラムを提供しており、IBDPは16歳から19歳の大学入学前の生徒を対象にした2年間のプログラムで、茗溪学園では、2018年度よりIBDPコースの1期生が国際統一カリキュラムを受講開始しました。

IBDPは、大学進学の学習だけではなく、その後の人生に必要な力を養う、高度でバランスの取れたプログラムになっています。内容は、TOK (知の理論)、EE (課題論文)、CAS (創造性・活動・奉仕) の3つのコア科目と、6つの教科群で構成されており、きめ細かく幅広い学習経験を提供しています。

またIBDPは、原則として英語の授業でしたが、2013年から多くの科目を日本語で実施できる、日本語DPが導入されており、茗溪学園はこの日本語DP校の認定を受けています。

茗溪学園のIBDPコースでは、まず高校1年で日本の高校教育課程を中心に学びます。次の高校2、3年の2年間で、IBDPの国際統一カリキュラムを修了し、最終試験に合格すると、日本の高校卒業資格と、世界100カ国以上、2万校以上の大学入学資格や受験資格を得ることができます。

茗溪学園のIBDPコースの募集定員は20名(最大25名)です。受講生の選抜は、中学2年後期と中学3年前期の国語・数学・英語の通知表の評定と、提出物の提出状況なども考慮に入れた上で、基準を満たした生徒を対象に、英語によるテストと本人面接、保護者同伴面接などを経て決定します。また、高校からの新入生を対象にした選抜も実施しています。





# スーパーサイエンスハイスクール | SSH

## 科学の未来の担い手を育てる理数教育

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) は、文部科学省が設けた制度です。先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的能力や科学的思考力等を培い、将来の社会を牽引する科学技術人材の育成を目的としています。また、「科学への夢」、「科学を楽しむ心」を育み、生徒の個性と能力を一層伸ばしていくことを目指しています。SSH に指定された中学校・高等学校は、文部科学省や関係する機関の支援を受けながら、科学技術、理数系教育の充実を図ります。

茗溪学園は 2011 年に SSH 指定校となりました。経過措置期間を含む 2016 年までの 6 年間の指定期間中に、独自のカリキュラムによる授業、大学・研究機関との連携による授業、地域の特色を活かした課題研究などに積極的に取り組み、着実に成果を挙げてきました。

SSH 指定第 1 期では、独自のプロジェクト (GET プロジェクト) を立ち上げ、大きく 3 つのプログラムを実施し、次のような活動を行いました。

### 国際的科学教育 (Global Program)

創立以来、取り組んできた国際教育の実績を活かして、英語教育によって培われた語学力を科学に応用する取り組みを行いました。英語の科学論文・雑誌の読解力向上、外国の学校と共同で実施する英語での科学研究プレゼンテーション・ディスカッション、選抜者を対象にした科学関連の海外研修等を実施しました。

### 6 年一貫理数系教育 (Explore Program)

茗溪学園の「実物に触れる」、「フィールドワークを重視する」教育をさらに拡充し、様々な現場での実験・観察等の調査研究に重きをおい

て、論理的思考力や探究に必要なスキルを学年段階に合わせた育成プログラムを開発。中学 1 年から高校 1 年までの科学研究に必要な能力を一通り身につけるカリキュラムを実施しました。

### 高大連携・高研連携による最先端科学の体験 (Tsukuba Program)

筑波研究学園都市に位置する地の利を活かして、筑波大学を中心としたこれまでの高大連携・高研連携をさらに広げ、国内外の優れた最先端の研究に触れるカリキュラムを実施。科学の奥深さについて実感を持って認識するとともに、科学の諸分野に対する進路意識やキャリア意識の向上を図りました。

## 第 2 期 SSH

2017 年には再び文部科学省から SSH の指定を受け、研究開発課題として「世界に提案できる、探究力育成を目指した茗溪学園式中高一貫カリキュラムの開発」を掲げ、オリジナルな教育プログラムの開発を進めています。第 2 期 SSH では、次の 3 つをプログラムの柱として展開しています。

1. 中高一貫を活かした探究スキルの育成
2. ハイレベルかつ主体的な学びを実現する理数カリキュラムの開発
3. 深い思考につながるクロスカリキュラムの実践

茗溪学園では、高校 2 年の必修科目「個人課題研究」を探究活動の集大成として位置づけ、中高一貫のメリットを活かして研究に必要





「科学への夢」、「科学を楽しむ心」を育み、  
生徒の個性と能力を一層伸ばす理数教育



な探究スキルを、段階的に習得させることを目標にしています。

探究能力が指し示す力として「問題発見力」、「論理的思考力」、「多面的に分析する力」、「協働で取り組む力」、「表現力」を掲げ、中学3年間において各学年で重点的に育てる能力を決め、日常の授業、教科の内容を超えた学習等の中で、それらの能力の向上を目指します。

高校2、3年時では、国際バカロレア(IB)コースではない総合コースにおいて、双方向型・協働型の学習で、探究活動を重視した学習者中心の深い学びを実現するため、「数学探究I・II」、「物理探究I・II」、「化学探究I・II」、「生物探究I・II」を設置しています。

クロスカリキュラムの授業では、1つの事象を文化的・歴史的な背景を踏まえながら、多面的角度から見つめ、そこから発生する課題を抽出し、持っている手法を十分に活用して、問題解決できる生徒を育成します。

### 学会、コンテストでの発表や多彩なフィールドワーク

SSH活動の成果は、国内の学会での発表や科学研究の世界コンテストへの出場など、多くの場所で表れました。主な成果には次のようなものがあります。

#### 高校生科学技術チャレンジ (JSEC)

2013年のJSEC(主催:朝日新聞社等)で、男子3名の「タマネギの体細胞分裂にリズムはあるか」が「花王特別奨励賞」を、男子1名の「発光細菌の照明への応用における可能性の考察」が「審査委員奨励賞」を受賞しました。後者の生徒は2014年5月に、アメリカで開催された国際学生科学技術フェア(Intel ISEF)に派遣され、発表しました。

#### 日本学生科学賞

2017年の第60回日本学生科学賞(主催:

読売新聞社)で、高1男子2名・高1女子2名の科学部生物班の研究「根の触覚」が、高校の部「優秀賞」他、多数の賞を受賞しました。

茗溪学園のSSHでは、学年行事として行っているフィールドワークや国内外の多くの研修など、科学に対する興味関心を深め、科学の最先端に触れる機会を数多く提供します。

#### SSH 海外研修

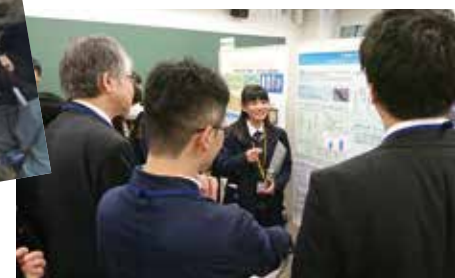
タイでの研修では、現地の大学の先生に案内していただき、中生代の地層とその地層から産出する恐竜化石について研修を行います。中国上海研修では、現地の高校生と研究発表交流会を行います。これらの海外研修では、研修の内容について英語で議論したり、課題研究の発表を英語で行ったりと、国際性を高める有意義な体験をすることができます。

#### SS Geo Tour

屋久島をフィールドに、多様な植物や固有種の観察を通じ、生物多様性や生態系を捉える科学的視点、環境保護に関する優れた認識を習得することを目標に毎年研修を行っています。

### 茗溪学園のSSH

文部科学省SSHは、2002年(平成14年)度からスタート。2017年(平成29年)度現在で203校が指定されています。指定期間は原則5年です。2011年、2017年と続けて指定を受けた茗溪学園の活動については、毎年度報告書にまとめられて学校ホームページ(HP)から詳細をご覧ください。





# 大学合格・留学実績 | Graduates' Destinations / Study Abroad Data

大切なのは「合格してから何を学ぶのか」。  
一人ひとりの可能性を最大限に高める進路指導

2019年度大学合格実績		2019年度海外大学合格実績		2018年度留学者数・受け入れ実績	
<b>国公立大学／準大学</b>		<b>医学部</b> (国公立大学・私立大学)		<b>本校からの留学（交換留学等）</b>	
東京大	2名	筑波大（医）	7名	アメリカ	
一橋大	1名	東京医科歯科大（医）	2名	カールトン大	1名
東京工業大	1名	群馬大（医）	1名	デポー大	1名
千葉大	3名	秋田大（医）	1名	グリーンネル大	1名
東京医科歯科大	2名	富山大（医）	1名	他	
筑波大	13名	信州大（医）	1名	<b>イギリス</b>	
東京外国語大	1名	鹿児島大（医）	1名	シェフィールド大	1名
お茶の水女子大	1名	東京慈恵会医科大（医）	1名	リーズ大	1名
東京学芸大	1名	順天堂大（医）	2名	マンチェスター大	1名
茨城大	9名	東京医大（医）	1名	他	
宇都宮大	1名	東邦大（医）	1名	<b>オーストラリア</b>	
群馬大	1名	北里大（医）	2名	モナシュ大	1名
福島大	1名	国際医療福祉大（医）	4名	<b>ドイツ</b>	
信州大	1名	東海大（医）	1名	ケルン大	1名
富山大	1名	独協医大（医）	2名	他	
高知大	2名	岩手医科大（医）	2名	海外大学総合合格者数	14名
岡山大	1名	他		<b>留学制度利用者</b>	
長崎大	1名	医学部（国公立・私立）	30名	2018年度までの主な実績	
鹿児島大	1名	総合合格者数	30名	UWC	54名
国際教養大	1名	歯学部（国公立・私立）	14名	YFU	67名
都留文科大	1名	総合合格者数	14名	AFS	88名
長岡造形大	1名	薬学部（国公立・私立）	30名	EIL	11名
茨城県立医療大	1名	総合合格者数	30名	ロータリー	28名
防衛大	2名	獣医学部（国公立・私立）	18名	その他	14名
他		総合合格者数	18名		
国立大学総合合格者数	55名				
<b>私立大学</b>					
早稲田大	18名				
慶應義塾大	12名				
上智大	7名				
明治大	10名				
青山学院大	18名				
立教大	10名				
中央大	11名				
法政大	15名				
東京理科大	16名				
学習院大	12名				
国際基督教大	1名				
津田塾大	5名				
東京女子大	2名				
日本女子大	5名				
聖心女子大	1名				
成蹊大	13名				
成城大	3名				
明治学院大	5名				
国学院大	3名				
獨協大	5名				
日本大	42名				
東洋大	21名				
専修大	3名				
駒澤大	1名				
芝浦工大	8名				
東京農業大	13名				
北里大	19名				
順天堂大	8名				
東京歯科大	4名				
明治薬科大	1名				
同志社大	5名				
関西学院大	4名				
立命館大	10名				
他					
私立大学総合合格者数	538名				
				<b>長期留学から復学（交換留学）</b>	
				AFS オーストラリア	2名（高2）
				ドイツ	1名（高2）
				コスタリカ	1名（高2）
				デンマーク	1名（高1）
				YFU ドイツ	1名（高1）
				EIL アイルランド	1名（高2）
				ドイツ	1名（高1）
				<b>ロータリー</b>	
				タイ	1名（高2）
				<b>海外からの留学生受け入れ<sup>*1</sup></b>	
				アメリカ	2名（中3）
				台湾	3名（高1・2）
				中国	2名（高1・2）
				タイ	2名（高2）
				ベトナム	1名（高3） <sup>*2</sup>
				フィリピン	1名（高1）
				ブラジル	1名（高1）

<sup>\*1</sup> AFS、ロータリー、国費、私費留学を含む  
<sup>\*2</sup> 筑波大学へ本校から進学



# クラブ活動実績 | Club Activities

全生徒の約9割が所属。  
活発な活動でさらに充実した学園生活に

## 運動部

約6割の生徒が所属。ラグビーと剣道は、校技として授業でも行う。中学、高校共に全国レベルで活躍する部が多い。

- ラグビー ———— 中学：全国中学大会優勝1回、関東大会優勝13回／高校：全国総体優勝1回・3位2回、関東大会優勝2回
- 剣道部 ———— 中学：全国大会出場 団体7回・個人9回、関東大会出場 団体25回・個人14回／高校：インターハイ出場 団体1回・個人1回、関東大会出場団体14回・個人4回
- 柔道部 ———— 中学：全国大会出場5回、関東大会出場6回／高校：全国総体出場2回、全国選抜出場1回
- 体操部 ———— 中学：全国大会出場2回／高校：全国総体出場18回、全国選抜大会出場1回
- バドミントン部 ———— 中学：全国大会出場6回、関東大会出場10回／高校：全国総体出場10回、関東大会17年連続出場
- テニス部 ———— 中学：関東大会優勝1回／高校：全国総体出場25回、関東大会出場26回
- バスケットボール部 ———— 中学・高校：県大会出場を目指し活動
- バレーボール部 ———— 中学・高校：女子／高校：男子が活動
- 卓球部 ———— 中学：全日本選手権カデットの部出場3回／高校：全国選抜大会出場2回、関東大会出場3回
- 水泳部 ———— 中学：全国大会出場5回、関東大会出場11回／高校：全国総体出場8回、関東大会出場18回
- サッカー部 ———— 中学・高校：専用サッカー場で活動
- 軟式野球部 ———— 高校：春季関東大会優勝2回・準優勝1回、秋季関東大会優勝2回・準優勝1回、全国総体準優勝1回、国民体育大会優勝1回
- ダンス部 ———— 中学：日本中学校ダンス部選手権全国決勝大会出場2回／高校：日本高校ダンス部選手権全国決勝大会出場2回、日本高校ダンス部選手権新人戦特別賞3回

## 文化部

約4割の生徒が所属。100名を超える部もあり、科学部、美術部、書道部などは全国レベルのコンテスト、コンクールで高い評価を得て入賞している。

- 科学部 ———— 物理班等の計7班、総勢170名以上で活動。生物班：自然科学観察コンクール佳作2回、JSEC花王特別奨励賞、日本学生科学賞中央審査優秀賞／無線工学班：6m AND DOWN 関東大会通算19回1位、フィールドデーコンテスト全国17年連続優勝、ALL JA コンテスト全国優勝4回、全市全都コンテスト全国優勝1回、ARDF世界選手権出場3回、全日本ARDF大会(中学個人・団体)個人1位・団体2位
- 美術部 ———— 全日本学生美術展団体最高賞29回受賞、全日本イラストコンクール通産大臣賞他受賞、旺文社学芸科学コンクール日本美術院賞他受賞
- 書道部 ———— 大東文化大学主催全国書道展文部科学大臣賞・優秀団体賞21年連続受賞、東京学芸大学主催学芸書道全国展優秀団体賞13年連続受賞、成田山全国競書大会読売賞・成田山賞、全日本高校大学生書道展書道展賞、毎日学生書道展文部科学大臣賞2回
- 吹奏楽部 ———— アンサンブルコンテスト関東大会銀賞2回、アンサンブルコンテスト東関東大会銀賞2回、定期演奏会(7月)開催
- 室内楽部 ———— 全国総合文化祭出場、定期演奏会(11月)開催
- 合唱部 ———— 声楽専門の先生の指導のもとで活動、クリスマス・コンサート開催
- ギター部 ———— ギター演奏を楽しみながら活動
- 演劇部 ———— 関東演劇研究大会出場2回、はいすく〜るドラマすべしやるIN 俳優座参加
- 文芸部 ———— 冊子「みずどりの羽」発行
- 写真部 ———— 関東高等学校芸術祭出場2回、全国高校総合文化祭出場3回
- 語学部 ———— 学年を越えて協力し合って活動

## 同好会

小規模ながら、同好の士が集い、日々楽しく活動中。

- 落語研究会 ———— 日々、落語の腕を磨きつつ活動
- 茶道同好会 ———— 文化祭、季節の茶会などを開催
- イラスト同好会 ———— イラスト集発行
- ボランティア同好会 ———— 校内行事、校外にて活動
- コンピューターシステム研究会 ———— U22プログラミングコンテスト参加



ラグビー部



野球部



体操部



美術部



吹奏楽部





## 楽しい寮生活

茗溪学園の寮生活では、年間を通じて様々なイベントが実施されます。学寮全体行事としては、中学・高校新入寮生や留学生の歓迎会、餅つき大会、寮祭、クリスマス会などがあり、その多くが寮生たちによる自主的な企画運営になっています。中でも「寮祭」は学寮最大のイベントであり、1ヵ月以上の準備期間を経て、寮生自身が様々なパフォーマンスを披露したり、バーベキュー等を行います。また、12月に行われる「クリスマス会」は高校3年の寮生を送る会として例年実施しています。

学寮設備については、寮生が主に使用する第2食堂を改装し、2019年には寮生用浴場を新しくする等、積極的な改善を行っています。特に新築した浴場は、使い勝手を考慮した大浴場と、15室以上の個室シャワースペースを完備しています。今後も寮内の学習環境

整備や交流スペースの拡充などを予定しています。

学寮スタッフは、校長・副校長・寮長を含む計15名の常駐職員が交代で勤務し、寮生たちと寝食をともに生活しています。さらに、寮母等の学寮専属スタッフによる日直が日中の受付を担当し、緊急時の対応、病院などへの各種送迎、寮生保護者への連絡など、様々な状況への対応が可能になる体制をつくっています。また、寮内保健室も設置しており、ベテラン看護師による怪我や病気等に対するアドバイスも受けられます。

寮生活は集団生活であり、寮生としての心構えが生活する上でとても重要です。寮生の生活面と心身のケアは、寮専任職員の「ハウスマスター」12名が務めており、学級担任のように指導、ケアを行っています。個別面談も定期的実施しており、寮生活を送る子どもたちが安心して生活ができるよう配慮しています。

## 充実した学習支援体制

寮生活では、中学生・高校生ともに学習時間—「沈黙の時間」を週6日間設けています。このような毎日の積み重ねは、6年間で総計3500時間以上の学習時間を生み出し、その中で日々の授業の予習・復習、課題、受験勉強に十分な時間が確保できるようにしています。

「沈黙の時間」は高校生3時間、中学生2時間の学習時間となっており、この時間は寮生同士の会話も禁止し、学習に集中させていくことで、着実に学習習慣を身に付けていきます。早い時期から自分自身と真剣に向き合うことで、与えられた課題をこなすだけでなく、将来を見据えた能動的な学習意欲が身に付きます。

さらに、希望者に対してチューターによる「学習支援体制」を拡充しています。チューターは筑波大学大学院の教育研究科院生を中心とした大学院生・学生の総勢30名が、学習サポートを行っています。内容については集団と個別

## ■主な施設概要

部 屋	中学：2・3人部屋 高校：2人部屋
設 備	食堂(完全給食)、浴場(シャワールーム完備) 全自動洗濯機、自販機、共用PC(中学フロア) Wi-Fi完備。(高校フロアは個人所有PC持ち込み可)
学 習 指 導	有料にて受講可能
帰省・外泊	許可申請にて可能 年末年始以外は寮を運営 (部活動や各種活動がある場合のみ、 長期休暇中の在寮可)

## ■寮での1日

6:15	6:45	7:00~8:00	8:30~18:00	18:30~19:20	19:30~21:30	22:00~
起床・点呼・朝の活動	身支度・登校準備	朝食	登校・授業・部活	夕食・入浴	中学生	沈黙の時間 就寝準備
					高校生	沈黙の時間 就寝準備
					19:30~22:30	23:00~
					中学生	就寝
					高校生	就寝



さまざまな国や地域から集まる仲間たちと、  
「同じ釜の飯を食う」6年間の共同生活

の2種類の形式となっており、集団形式授業では主要科目を中心にそれぞれのレベルに合わせた授業を開講、個別指導では1～3人程度の生徒に対してチューター1名が担当し、個別での指導を週に1度のペースで行っています。中学生には効果的な学習方法の習得を、高校生は大学受験・進学に向けて着実な力が付くようサポートをしています。また、IB生専用の面談、英語や日本語以外の語学取得の指導など、学習サポート内容は多岐にわたっており、個人のニーズに合わせた支援を行っています。

学習支援を通じた本校OBの大学生や大学院生との直接的な関わりは、受験や大学生活、将来について様々な体験談の提供に繋がっており、個人的な相談もできる機会になっています。学習のみに留まらない多様なサポートが楽しい雰囲気の中で実現しています。

### 寮生活を通じた国際的日本人の育成

茗溪学園の学寮は、世界各地から多くの留学生・帰国生を受け入れています。

寮では、国内出身の生徒・帰国生・長期滞在の留学生が同じフロアで共同生活を送っています。多様な文化・バックグラウンドを持った集団生活を送ることにより、世界の文化の違いや国際的な視点を、自然と身に付けることができるような環境になっています。その環境で暮らしていきながら、英語を中心とした様々な言語を媒介に、お互いの相互理解を日々深めていきます。茗溪学園に短期訪問する留学生の多くが、学寮に滞在し、寮での短期留学生歓迎会や、国際スポーツ交流大会などのイベントを通じて短期留学生とも交流が行われます。寮生と短期留学生がバディを組んで寮生活を送ることで、日常的に密度の高い国際交流ができます。

また、世界中から多数の帰国生を毎年受け

入れているため、それぞれが多様な地域での生活経験を持っています。寮生の約50% (2019年度現在) が海外での生活経験を有しており、お互いの経験の日々の共有が、世界的な視野の獲得に繋がっています。加えて、長年の海外生活による日本の学校生活への適応への不安も多くの寮生が経験しているため、共感的な態度でお互いに支え合うことができている。共同生活を通して、文化の多様さを肌で感じながら相互理解を深めるという経験は、寮生だからこそ得られる貴重な学びとなっていきます。本校の寮生たちは、進路も非常に多様です。IB生を中心に、海外の大学への進学を希望する寮生も少なくありません。先述の学習支援体制の中でも、IB生へのサポートは筑波大学大学院の博士課程の専門的なチューターが担っており、最新の情報収集を積極的に行い、個別の進路相談も可能となっています。

### 寮だからこそ得られる経験

寮は、学校の一部であると同時に社会生活の場でもあります。守られた環境でありながらも社会的に開かれた場でもあります。寮生たちが将来を見据えた本物の経験を積めるよう、世界で活躍する企業や、社会貢献の分野で大きな成果を上げている地元の団体と寮が連携した合同プロジェクトを現在進めています。このプロジェクトを通して、寮生が自分の将来について深く考え、6年間を通じて、確実な成長を遂げることを目標にしています。

さらに寮では、より密度の濃い社会体験の充実を図るため、筑波大学の学生が中心となった様々なイベントが今後も計画・実施される予定です。





## 卒業生が語る学園生活 | Graduates Look Back on Meikei Life

### 「人間力」を磨いて 世界に羽ばたく「茗溪生」に。



ミューザ川崎こどもクリニック  
医院長  
皮膚科専門医 医学博士  
東京医科歯科大学大学院  
医学総合研究所 修了

三井 理恵  
(20 回生)

私は茗溪学園で6年間を過ごした後、医学部に進学しました。卒業後は茨城県の現JAとりで総合医療センターでの初期研修を経て、東京医科歯科大学皮膚科に入局し、診療経験を積みながら、大学院で経皮感作と食物アレルギーを研究しました。その間に子供を出産し、専門医資格を取得。2016年に「ミューザ川崎こどもクリニック」を開業しました。

開業のきっかけは、2人目の出産後になかなか医療現場に復帰できない私に、小児科医である夫から「キャリアも子育ても両立しながら女性が活躍できるクリニックを開設したらどうか」と提案があったことです。ところが開業準備を始めて間もなく3人目を妊娠。大きなお腹を抱えながらも、素晴らしいスタッフに恵まれたことで、無事に出産、予定通り開業することができました。

当院は私を含め、医師、スタッフともに、

出産を経て社会復帰した職員が多いことが大きな特徴です。お互いに協力しながら患者さんを診療できる環境はとても楽しく、充実しています。このようなお互いを思いやって「お陰様」の精神で働ける職場づくりが、私の原動力だと思います。これからは患者さんに寄り添った医療サービスを提供できるよう、地域医療に尽力していきたいと思っています。

しかし、日本は女性が子育てをしながら働くためには、まだ十分な環境が整っていません。女性の「働きやすさ」を追求し、より地域医療を充実させるには、行政との関わりが重要であると考えて、現在はそのような分野にも興味を湧いています。

茗溪学園の日々を振り返ると、様々な行事、個人課題研究、国際的な視野といったキーワードが思い出されます。

まず様々な行事は、そのどれもが自主性が自然に育つ経験だったと感じます。生徒自身が計画し、実行するにはどうしたら良いかを考える機会が多く、先生方は見守りつつ時々軌道修正するという形式でした。

また高校2年の個人課題研究では、日本で初めて脳死移植が行われたことに興味を持ち「臓器移植」をテーマにしました。当時の脳死に関する意識や倫理的問題などについて考えながら、移植医療の発展に向けた考察を行いました。この研究を通じて自分自身と向き合い、将来は医師になりたいという思いを

確認できたことで、確固たる目標の下で受験勉強に専念できたと思います。

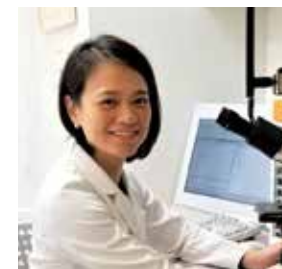
そして国際的な視野は、茗溪学園には常に他国からの留学生がいる一方で、茗溪生が留学に旅立つことも多いため、日本が国際社会の一員であることを無意識に理解できる環境でした。茗溪学園で小さなグローバル社会を体験できる意義は大きいと感じます。

開業から3年が経ち、医師として最新の医療知見を常に勉強することの難しさはもちろん、経営、経理といった経営者としての能力が必要であることを痛感しています。そこで勉強会やセミナーに参加し、少しずつビジネスの仕組みを理解できるよう努めてきました。そのおかげで自分自身の視野も広がり、最近では医師よりもビジネスウーマンの方が向いていると言われることが多くなりました。

今になって気付いたことですが、茗溪学園での様々な経験そのものが、社会人の基本を学ぶ最適な機会となっていたと思います。その経験からも、皆さんに知って頂きたいことは、茗溪学園は「人間力」を培うことができる環境だということです。将来何を目指すとしても「人間力」があればなんでもできます。勉強は自分自身のスキルを可視化・数値化できる武器となるので疎かにはできませんが、それはあくまでツールと考えて、目には見えない「人間力」を大事にしてほしい。そして変化を恐れないでほしい。私もまさか「医師



学会発表中の三井理恵さん



診療所にて



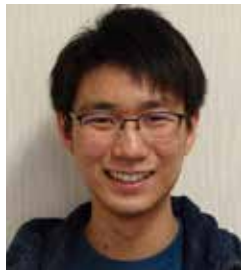
「ビジネスウーマン」になるとは考えてもいませんでした。

現在まで決して順風満帆ではなく、人知れず大変な苦勞もありました。そこで家族以外に支えてくれたのが、茗溪時代の仲間たちでした。この仲間たちとの出会いも学園生活で得られる貴重な財産です。ぜひ後輩の皆さんには、茗溪学園で様々な経験をして、新しい自分に出会うことの面白さを体験してほしいです。そして、自分自身の「人間力」を磨いて、日本だけでなく世界に羽ばたく「茗溪生」となってもらいたい、と心から応援しています。



大学や社会で夢に邁進する卒業生が、  
茗溪ならではの学園生活を語る

茗溪には受験一辺倒でない  
自由な学びがあります。



東京大学  
文科三類在学中

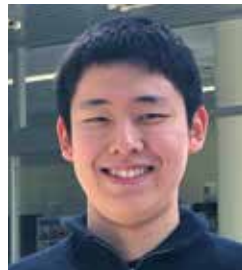
若槻 多門  
(38 回生)

茗溪学園での豊かな経験の中で、特に私が注力したのは桐創祭での演劇や映画製作等でした。クラス全員が苦楽を共にして自分たちにしかできない作品を作り上げた時の喜びは何物にも代えがたいものになりました。

高校2年の個人課題研究では「グローバル人材育成のための教育」をテーマに、IB教育と従来型教育の比較を通して「学ぶこと」とは何かを考えました。研究を進める中で、指導担当の先生と教育について楽しく語り合った経験は、教育学への興味を深めるだけでなく、一つのことに集中して取り組む訓練になり受験勉強にも役立ちました。

茗溪学園の受験一辺倒でない自由な学びは、様々な分野への興味を与えてくれました。大学でも色々なことに積極的に挑戦して知見を広げ、「世界的日本人」として社会に貢献できるように成長したいと思います。

様々な行事に積極的に参加して  
具体的な将来像を見つけよう。



筑波大学  
医学部在学中

小倉 結希  
(38 回生)

高校進学当初は、まだ自分のやりたい具体的な将来像は決まっていませんでした。そこでSSHの海外研修、イノベーションキャンパスinつくば、企業ワークショップ等の様々なプログラムに積極的に参加。特に社会の第一線で活躍する方々のお話を聞くことで、一番興味のある分野が明確になりました。

その結果、個人課題研究は免疫学をテーマに、私自身も罹患している花粉症を含めたアレルギー反応の解決策について研究しました。この研究を通じて医療分野への関心が深まり、現在、大学でアレルギーを中心とした専門医師を目指して学んでいます。

茗溪学園の様々な行事を通じて、新しい発見や気づきといった多くのことが得られると思います。また進路の決定に参考になることも見つかると思いますので、皆さんも将来に向けて積極的に活かしてほしいと思います。

茗溪で身に付けた英語力が、  
今の仕事に役立っています。



全日本空輸株式会社  
(ANA)  
客室乗務員・チーフパーサー

高橋 梓  
(27 回生)

茗溪学園では、英語の授業で海外生が同じクラスに在籍していたことがきっかけで、将来は語学力を身に付けて国際的に活躍できる人になりたいと考えるようになりました。また高校2年の個人課題研究では、英語での絵本の作成を通して、英語の擬音語や擬態語などを研究しました。その経験から日本語と英語の言語としての違いや翻訳に興味を持ち、大学は翻訳を学べる学部に進学しました。

現在はANAの客室乗務員として、国内線・国際線の両方に乗務しています。茗溪時代に身に付けた英語力や異文化に対する興味と理解、様々な学校行事で培われた体力と協調性が仕事にも役に立っています。2020年の東京オリンピックでは、来日する多くの海外の方を、日本人らしい「おもてなし」の心を持って、日本の魅力を発信できるような存在になっていきたいと思っています。

待っているだけでは、  
自分の可能性は掴めません。



歌手／ボーカルグループ  
「VOJA-tension」メンバー

榊原 暁  
(30 回生)

私は学校行事や様々なプログラムが多い茗溪学園に最初は甘えていました。茗溪に入学すれば将来うまくいくだろうと漠然と思っていたのです。そんな自分を大きく変えたのは、高校1年の「英語レシテーション・コンテスト」の授業でした。英語が決して得意ではない友人が堂々と発表する姿を見た時、自分の可能性を広げるためには、何事にも全力で努力しなければならない、待っているだけでは何も掴めないと学び、気づかされました。

現在、私は歌手として活動しています。コーラスは、自分の声の個性を消すよりも、各々の個性のある声を持ち寄って作るハーモニーが、何より素晴らしいものだと思っています。皆さんには、多様なバックグラウンドを持つ茗溪の仲間から刺激をもらい、切磋琢磨しながら、自分の夢に向かって明るく楽しい充実した学園生活を送ってほしいと思います。

# おもな年間行事 | School Events

年間を通したユニークで多彩な行事が  
茗溪アイデンティティを確実に培う

## 4

- ・入学式
- ・施設見学（筑波研究学園都市他）
- ・クラブオリエンテーション
- ・寮生ハイキング



## 5

- ・中1 短期入寮
- ・生徒総会
- ・父母総会
- ・教育実習（3週間）
- ・オープンキャンパス



## 6

- ・桐創祭（文化祭）
- ・芸術鑑賞会
- ・プール開き



## 7

- ・サマースタディ
- ・夏期補習（前期）
- ・前期合宿

## 8

- ・夏期補習（後期）
- ・後期合宿



## 9

- ・中1 里見キャンプ
- ・生徒会選挙

## 10

- ・高1 農業巡検
- ・高2 海外研修旅行
- ・中3 短期入寮
- ・中3 理科巡検
- ・中2 筑波山キャンプ
- ・ステップアップ研修
- ・茗溪学園美術展



## 11

- ・中1 英語劇
- ・生徒総会



## 12

- ・中2 英語劇
- ・中3 国内研修旅行
- ・ウィンタースタディ
- ・北風祭（球技大会）
- ・寮クリスマス会



## 1

- ・中1～中3 書き初め
- ・高1・2年かるた大会
- ・凧あげ大会
- ・中学校・高等学校入学試験



## 2

- ・中1・中2 合唱コンクール
- ・中3 クロスカルチャラルトーク
- ・高2 短期入寮／寒稽古
- ・個人課題研究発表会・SSH 第2期年次報告会

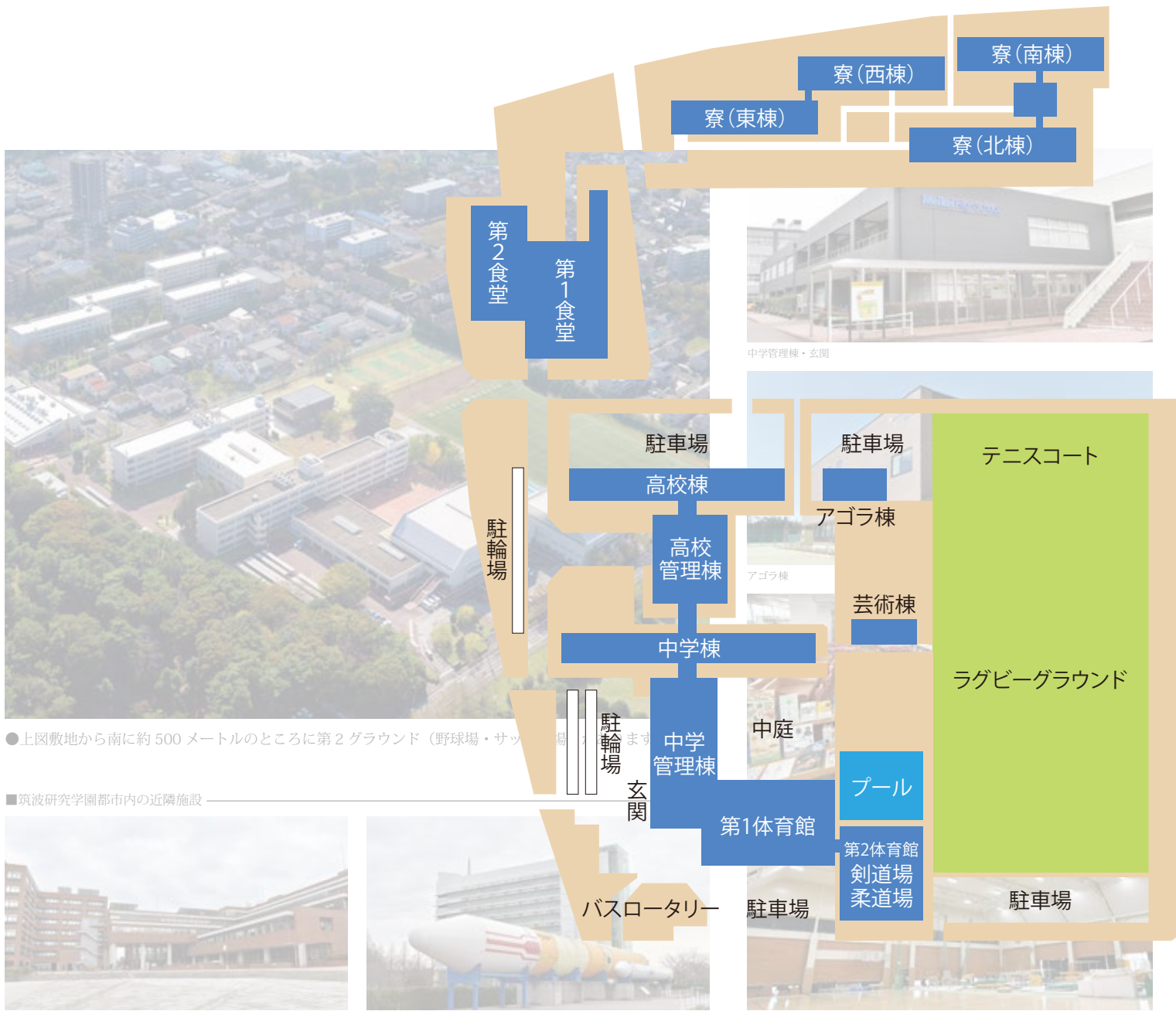


## 3

- ・校技大会（ラグビー、剣道）
- ・六送会
- ・卒業式



# 施設案内 | Facilities



●上図敷地から南に約 500 メートルのところにある第2グラウンド（野球場・サッカー場）

■筑波研究学園都市内の近隣施設



筑波大学



宇宙航空研究開発機構 (JAXA)



第2 体育館



ラグビーグラウンド



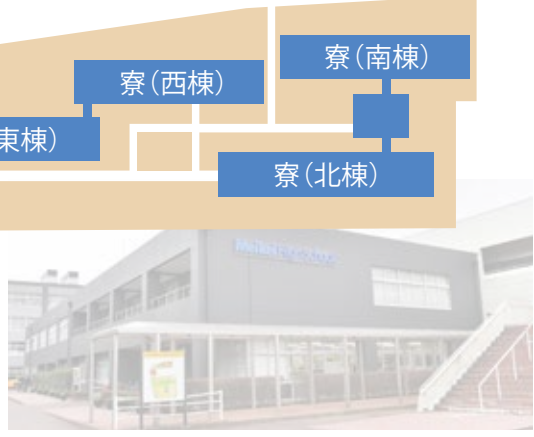
アゴラホール



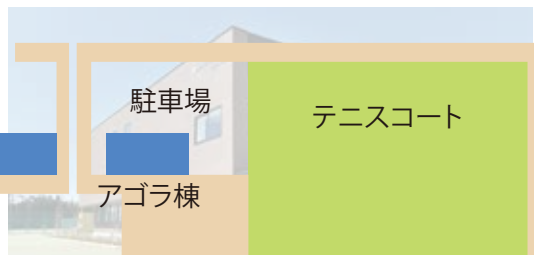
生物実験室



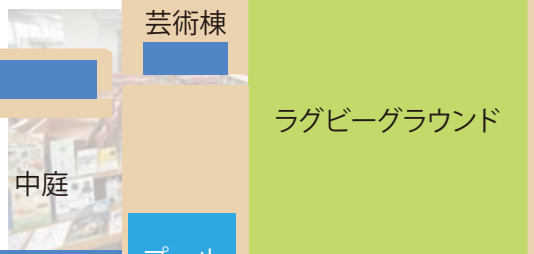
第1、第2 食堂



中学管理棟・玄関



アゴラ棟



中庭



第1 体育館

# 施設案内 | Facilities



●上図敷地から南に約 500 メートルのところには第 2 グラウンド（野球場・サッカー場）があります。

## ■筑波研究学園都市内の近隣施設



筑波大学



宇宙航空研究開発機構 (JAXA)



中学管理棟・玄関



ラグビーグラウンド



アゴラ棟



アゴラホール



図書館



生物実験室



第 2 体育館



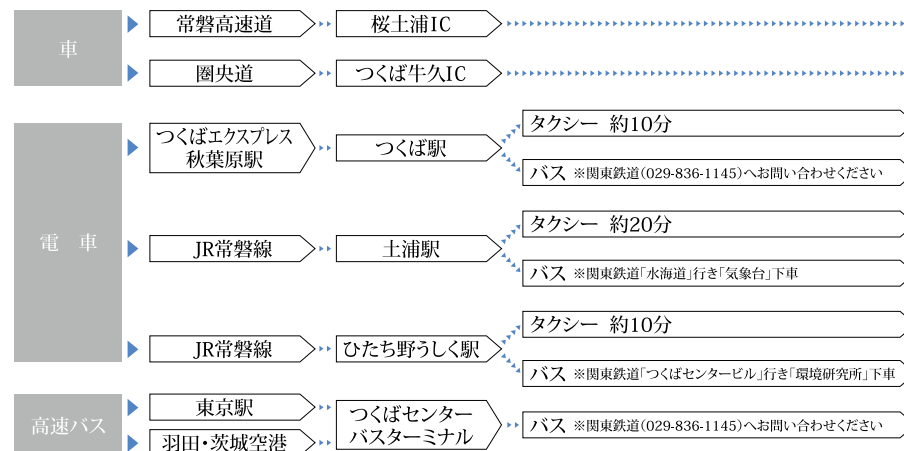
第 1、第 2 食堂



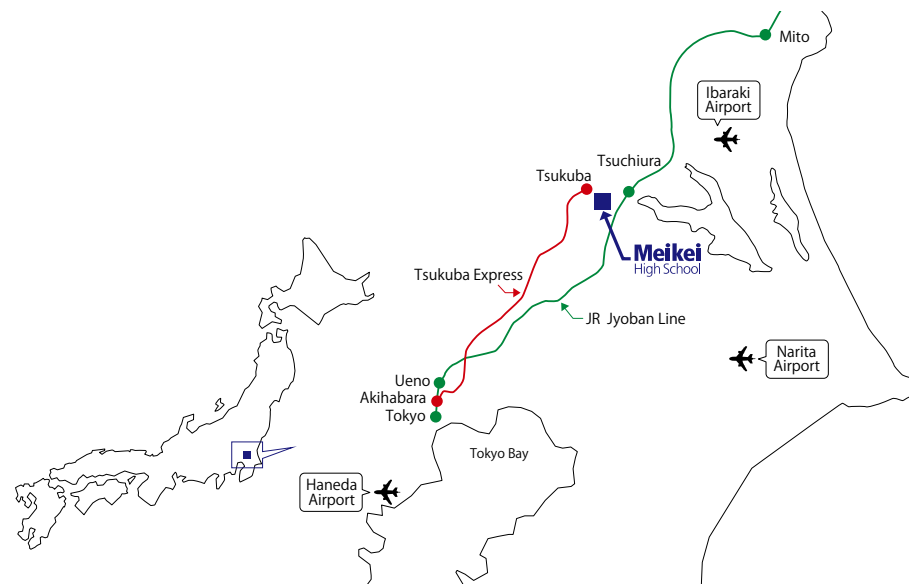
## 2019年度説明会・学校公開日程 ※詳細はホームページにてご確認ください

オープンキャンパス	5月25日(土) 小学6年生対象 ※要予約
海外生・帰国生説明会	6月22日(土) 海外生・帰国生対象 ※要予約
高校学園説明会	7月6日(土) 中学生対象 ※要予約
サマーホリデー・ミニオープンキャンパス	7月25日(木)・26日(金)・27日(土) 小学6年生対象 ※1日50組限定 ※要予約
高校入試説明会	9月14日(土) 中学生対象 ※要予約
学園説明会(中学高校入試説明会)	10月26日(土) 主に保護者対象 ※要予約
茗溪学園文化祭	6月8日(土)・9日(日) 10:00～16:00 ※予約不要
吹奏楽部定期演奏会	7月27日(土) 開場16:30、開演17:00 ※予約不要
茗溪学園美術展(会場:つくば美術館)	10月16日(水)～20日(日) 9:30～17:00 (最終日は14:00終了) ※予約不要
国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)コース説明会	6月22日(土)、10月26日(土)

## 交通アクセス 〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1



茗溪学園中学校高等学校



スーパーサイエンスハイスクール指定校 / 国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校  
スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト指定校



# 茗溪学園中学校高等学校

TEL.029-851-6611